

3. 2024年度会計決算案・事業報告案、及び監査報告

(溝脇専務/大野理事/生島監事/大西監事)

- 2024年度会計決算案 (2024年9月 - 2025年8月) について、正味財産増減計算書、貸借対照表、附属明細書、財産目録等の会計計算書が提示され、当期正味財産増減額は全体で1,853,748円の黒字、公益目的事業会計において約759万円の赤字決算となったことが顧問会計士から説明された。
- また、2024年度事業報告案について、各担当理事から提出された報告書の確認がなされ、総会に提出する旨承認された。
- 生島監事より、2024年度における法人の事業・財産・会計決算書類について、10月9日JASTRO事務局にて、通帳をはじめ各種書類を大西監事と共に監査した結果、正確に運営されている旨が報告され、総会にて監査報告を行うことが説明された。

4. 代議員選挙におけるダイバーシティ枠、理事会陪席制度他 総務・将来計画委員会検討・提案

(宇野理事長/大野理事)

- 代議員選挙におけるダイバーシティ枠 (辻野理事)

次期代議員選挙におけるダイバーシティ枠適正数について、女性枠目標数は代議員の20%程度(25名)とすると、2024年選挙時の女性枠20名に対し実数は17名だったため、次回選挙は「女性枠2名増員」、物理枠の5枠は物理系代議員比率5.8%に対して2.3%と低かったため、正会員の構成を見て「物理技術枠10名増員」が提案され、最終的には細則記載通り来年3月1日の正会員数に基づく旨確認され、承認がなされた。また、定款14条「(代議員数) 正会員数の1/11~1/10を超えない範囲」については、次回選挙において、現存の一般代議員数191名はまだ余裕のある範囲で設定されており、ダイバーシティ枠が増員になった場合でも一般枠は減少とならず、定款変更は必要ない旨確認され承認がなされた。また、新たなダイバーシティ枠(看護師枠)については、定款の正会員種別を変更が必要であり、選挙制度、種別全体の見直し議論が必要なため、現状、特任理事等の制度によって実施する方向が確認された。
- 行政対策に関する提案 (大野理事)

具体的な提案として、行政等との勉強会・講演会の実施、次世代の若手会員の参画、訪問チームの構成(担当理事、実務担当者、行政担当者、若手会員)、報告書の形態と情報の公開(現在使用のものを継続、公開できる範囲で会員と情報共有)、行政等対応職員の雇用(財源等課題を検討、次のステップとして位置づけ)が挙げられている旨が説明され、引き続

2025年度第1回(2025年第7回)理事会議事録

日時：2025年10月24日(金) 14:00～17:15

場所：トラストシティカンファレンス 京橋STUDIO 2
 現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、青木昌彦、青山英史、石川仁、大野達也、小川和彦、古平毅、櫻井英幸、佐々木良平、塩山善之、辻野佳世子、中村和正、二瓶圭二、村上祐司、山内智香子(以上理事)、生島仁史(監事)、寺嶋顧問会計士、祐宗亨氏、谷謙甫氏(一般社団法人がん医療の今を共有する会[ACT]以上オブザーバー)、角田怜子、鈴木弘美、山内蓉子(以上事務局)

WEB出席者：瀧谷景子、神宮啓一、鈴木義行、中村聰明(以上理事)、大西洋(監事)(敬称略)

審議事項

1. 2025年第6回理事会(2025/8/23)議事録確認

(大野理事)

前回理事会議事録案と各検討事項に関する進捗状況が確認され、承認がなされた。

2. 会員の入会他(大野理事)

1) 2025年8月16日から2025年10月15日までの入会申請は39名[正会員13名、准会員26名]

賛助会員(団体)1社であることが報告され、承認された。

2) 2025年10月15日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。

- 会員総数: 4484名 [正会員2,327名、准会員2,049名、名誉会員60名、賛助会員40社、国際賛助会員8名]

- 退会者: 57名

- [正会員28名、准会員27名、国際賛助会員2名]

- 正会員内訳: 医師2,131名、歯科医師44名、医師以外152名(医師比率91.58%)

- 男女比率: 正会員[男性1,848名、女性479名]、

- 准会員[男性1,549名、女性500名]

専門医数: 1,508名 [男性1,214名、女性294名]

き詳細を検討する旨確認された。

- 部会・セミナー等合同開催に関する提案（神宮理事）
領域統合案（例 生物学セミナー+生物部会）、領域横断案（例 生物学セミナー+物理学セミナー）や可能なセミナーの隔年開催案等を検討したが、どれも一長一短がある旨が説明された。今後は大会長、世話人同士の意見交換の場を設け、どこかで統合できるかどうかを調整検討すること、コストのかかる部分はセミナー同士で共有する等の工夫・見直しを行うこと等引き続き詳細を検討する旨確認された。

- 特任理事等に関する提案（溝脇専務）

ダイバーシティの推進、理事会運営の活性化を目的とし、法律上の理事には該当しない「特任理事」（議決権はないが、意見・質疑可。現状は物理、看護師等准会員、若手会員からの選任を想定）を置くことが提案され、今後は「特任理事規程」を新たに作成し「特任理事」を設置する旨が承認された。

また、定款細則記載の「理事のうち、立候補した代議員からの選出に依らない理事3名（推薦理事）」については一般的の理事と同様、法律上の理事であり、現理事会が、代議員選挙後に理事選挙に立候補しない新代議員から推薦する手順が定められているが、「特任理事」は理事会の決議により任命できるとし、必要に応じて決定する旨も確認された。

- 若手等の理事会陪席制度（中村聰明理事）

学会の課題・活動の理解、開かれた理事会を目的として、若手を中心とした理事会陪席制度（オブザーバー参加：意見を求められた場合は発言可）が提案され、2026年4月理事会よりの実現を目指す旨承認がなされた。会員への公募実施と選考（抱負、参加理由書提出）、定員は原則3名まで/回、年齢は50歳以下若手優先、陪席誓約書、報告書の義務付け等の制度の内容を記載した規程を総務委員会にて作成する旨確認された。

5. 外部理事・外部監事導入に伴う定款変更

（宇野理事長/溝脇専務/鈴木理事）

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の一部改正」に合わせ、次回（2026年）の役員改選より本法律が適用となることから、当会定款19条、20条に外部理事、外部監事の項目を追記する定款変更案について、理事長、専務、総務担当理事、及び規約委員会にて審議された案が提案され、本提案を社員総会に諮る旨承認された。

6. 代議員提案事項について（溝脇専務理事/宇野理事長）

2025年9月8日～10月2日にて募集した代議員提案事項について、以下の提案があったことが報告され、

社員総会：その他議題として取り上げる旨と、当日の主担当者について以下確認がなされた。

- ①乳癌診療におけるPMRTの診療報酬改定の提案）
（櫻井理事）
- ②粒子線治療装置、建屋の廃棄、更新の手引きの作成（大野理事）
- ③廉価なリニアックを含めた装置ラインナップの学会としての提言作成（溝脇専務）
- ④放射線治療専門医試験の公式解答の公表（古平理事）
- ⑤各委員会での若手を対象としたオブザーバー枠、公募委員枠（中村聰明理事）
- ⑥学術大会プログラムアンケートの准会員への拡大（宇野次期大会長）
- ⑦放射線治療過去のデータ・資料のWEB閲覧（溝脇専務）

7. 2024年度社員総会開催最終議案・発議について

（宇野理事長）

2025年11月27日学術大会会場にて、以下の議題にて社員（代議員）を召集し、2024年度社員総会を開催する旨理事長より発議し、承認がなされた。

- ・報告事項 2024年度庶務報告、監査報告、2025年度事業計画、収支予算案報告
- ・第1号議案 2024年度事業承認の件 / 第2号議案
2024年度決算報告書承認の件
- ・第3号議案 法律改正に伴う定款第19条及び第20条追記変更の件
- ・第4号議案 第42回学術大会長推挙の件 / 第5号議案 名誉会員承認の件
- ・〔質問・討議〕 代議員提案事項 / その他

8. MR・CT画像誘導即時適応放射線治療ガイドライン

（青木理事）

全国の代表9施設より、2021年作成「MR画像誘導即時適応放射線治療ガイドライン」の内容を改訂し、新たにCT（CBCT含む）画像誘導即時適応放射線治療に関するガイドラインも付け加え、学会として「MR・CT画像誘導即時適応放射線治療ガイドライン（仮）」を作成するよう要望があり、承認された。

9. 第5回第三者出力線量評価認定制度認定施設の審査結果について（二瓶理事）

2025年6月2日-7月17日にて受付の「第5回第三者出力線量評価認定制度認定施設申請」施設について、8月8日当業部会による審査会議の結果、11施設は全ての認定要件を満たすことが報告され、承認がなされた。

10. ESTRO 2026、FARO-ESTRO 2026への座長・演者推薦について（青山理事）

ESTRO 2026、FARO-ESTRO 2026における放射線治療関連プログラムへの演者・座長推薦依頼があり、当会における旅費等の補助は現状ないが、内諾を得た以下の会員を推薦する旨、承認された。

- FARO-ESTRO Meeting (Singapore, Aug 28 - 30, 2026)
 - Head and Neck Cancer/Target delineation in oropharynx and nasopharynx cancer
安田耕一委員（北大）
 - Breast Cancer 川村麻里子委員（名古屋大）/ Hepatobiliary and GI Cancer 佐貫直子会員（慶應大）
 - Artificial intelligence in radiation oncology practice
村上祐司会員（広島大）
 - Proton and Heavy Ion Physics 松浦妙子会員（北大）
 - Automated Workflows/MRI Linac
中村光宏会員（京都大）
- ESTRO 2026 (Stockholm from 15 to 19 May)
 - CNS 西岡健太郎会員（北大）
 - Lung 高橋重雄委員（香川大）・金平孝博会員（北大）
 - Upper GI 坂中克行委員（京大）
 - Paediatric 出水祐介会員（兵庫粒子線医療セ）
 - Lower GI 田口千藏会員（がん研有明）
 - Gynaecological 安藤謙会員（群馬大）
 - Mixed sites/palliation 斎藤哲雄会員（済生会熊本）・中村直樹会員（聖マ医大）

11. 放射線治療専門医資格返上等申請（古平理事）

放射線治療専門医資格について1名の資格返上の申請があった旨説明され、承認された。

12. 「共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規程」改訂案

涉外・関連学会委員会より「共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規程」の第4条 依頼を承認する基準に関する文言変更の提案*が出されたが、公共性だけでなく、対象団体を官公庁、学術団体に限定するのは難しいとの意見が出され、規程は変更せず、委員会での予備審査をより厳密化する旨が承認された。

*「定款第1章第3条（目的）および第5条（事業）に則っていることに加え、次の項目①、②のいずれかに該当する場合に承認する。①公益性があると認められること。②対象となる団体は、原則として学術団体および官公庁等、またはこれらに準ずること。」の「いずれかに」を、「いずれにも」に変更する案

13. AI-WGの委員会（AIアドホック）化について

2020年「AI部会設立」が提案され、2021年将来計画委員会の下でAIワーキングにて活動が開始され、理事交代に伴い村上理事がWG長を継承。現在は独自WEBシステム上にデータサーバを構築、5施設で試運用を開始する等活動が進展し、今後はより専門的な課題に対応するため、委員会傘下のWGから独立したアドホック委員会として設置することが提案・承認された。正式な委員会化については2026年11月以降の新理事会で検討されることが確認された。

14. IMRT関連:大西班からの提案資料の確認について

（宇野理事長）

平成30年度診療報酬改定において、放射線治療を専ら担当する常勤の医師が配置されていない施設における緊急時の放射線照射計画の立案等の遠隔支援の評価として遠隔放射線治療計画加算が新設され、厚労科究大西班の解析結果においても「医師2名のうち1名が遠隔でIMRTの治療計画を策定した場合においても、放射線治療計画の品質に差が無いこと」が示唆され、これに関する説明資料の確認がなされ、学会としての承認がなされた。

15. 日本品質管理機構「放射線治療計画補助研修委員会委員」推薦依頼（溝脇専務）

放射線治療計画補助業務を担う人材育成教育・研修事業を目的として、本機構に「放射線治療計画補助研修委員会」が新設され、機構から本委員会委員3名の推薦依頼があり、前身の確認・試験作業部会から村上祐司理事、安田耕一代議員、コンテンツ作業部会から川村麻里子代議員を推薦することが承認された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

（宇野理事長/溝脇専務理事）

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 第38回学術大会報告：プログラム準備状況

（櫻井第38回大会長）

最終のプログラム、市民公開講座のポスターが示され、開催の準備を進めている旨報告された。

3. 高精度部会報告：第38回部会学術大会実施報告

（青山理事/溝脇専務）

第38回（2025年）高精度放射線外部照射部会学術大会の実施報告 [青山英史世話人（北海道大）/2025年5月24日～25日/会場開催（ホテルライフォート札幌）/

参加者有料407名（会員330名非会員58名・初期研修医・院生等19名）] 及び会計収支報告がなされた。[仮払金学会へ47%返金]

4. 放射線治療技術者資格検討小委員会

（溝脇小委員会委員長）

品質管理機構（QCRT）内で実施されていた放射線治療における物理・技術系資格認定制度の整理・登録の議論を、当会内WGを設置する旨が6月理事会で承認されたが、物理・技術系を中心とした関連8学会からの各2名の委員が推薦され、WGメンバーが決定した旨が報告された。

5. 粒子線委員会・部会報告：部会学術大会開催の回数、開催年表記について（石川理事）

部会としては初めての粒子線治療部会学術大会（2026年7月25日～26日開催予定）の回数等表記について、本年末終了予定の日本粒子線治療臨床研究会の回数のみを引き継ぐ案や、海外で主流の開催年のみ表記の案が検討されたが、原則「開催年表記（副次的に引継いだ回数表記）」とする旨が報告された。

6. 健保・粒子線治療委員会：先進医療会議への提出資料（冊子体）報告（石川理事/櫻井理事）

報告書「先進医療として実施した粒子線治療と既存の放射線治療との比較について」（冊子体）が完成し、厚労省等へ送付する旨報告された。

7. 涉外・関連学会委員会：「協賛・後援」依頼審議結果報告

6月20日～10月21日申請の4催事（第63回日本アイソトープ・放射線研究発表会協会/第21回ピンクリボンウォーク2025/癌治療学会第29回アップデート教育コース/東北大学「市民公開講座」）の「協賛・後援」依頼について、規定に基づき委員会にて審査の結果、全て「後援」にて回答した旨報告された。

8. ガイドライン(GL)委員会報告：肺癌学会「患者さんのための肺がんガイドブック 2025年版」後援依頼/強度変調粒子線治療ガイドライン査読/放射線顆骨壊死診療ガイドライン（仮）」進捗報告（青木理事）

■2019年より後援の日本肺癌学会「患者さんのための肺がんガイドブック悪性胸膜中皮種・胸腺腫瘍含む-2023改訂版」（GL検討委員長:石川理事）の2025版後援依頼を「承認」した旨報告された。
■7月理事会にて報告の「強度変調粒子線治療ガイドライン」査読結果について、その後秋元班より回答・修正があり、修正版を更にGL委員・粒子線治療委

員会で再査を実施、結果を送付後、最終修正内容を確認した旨報告された。

- 2024年3月より当会事業として決定した「放射線顆骨壊死診療ガイドライン（仮）」作成の進捗が報告され、1-2次スクリーニング、エビデンス総体評価、システムティックレビューのまとめが終了し、年末まで素案を完成するスケジュールで進んでいる旨報告された。

9. 國際委員会：各シンポジウム準備慎重等

（青山理事/佐々木理事）

- ASTROとの合同シンポジウム:MOUにより、JASTRO 2025年学術大会で第2回を開催予定であったが、ASTRO側のキャンセルにより延期、2026年JASTRO学術大会でASTRO-ESTRO-JASTROジョイントシンポとして開催、また第3回は2027年JASTRO学術大会で開催する方向の同意をASTRO事務局から得ており、2026年の第2回開催時に、第3回の開催について再度確認する旨報告された。
- 2022年（第11回）日本-台湾合同シンポジウム：2026年9月5日、佐々木良平理事（世話人）の下、神戸ポートピアホテルにて開催準備を進めている旨報告された。

10. 緩和的放射線治療委員会：新「緩和照射啓発Webサイト制作」WGメンバー（塩山理事）

緩和的放射線治療を分かりやすく解説する当会のWebサイト制作事業の進捗について、ワーキング（WG）のメンバーを委員会外からも公募し、以下決定した旨報告された。

大久保悠WG長、角田貴代美委員、田中修委員、和田優貴委員、三輪弥沙子委員、和田仁委員、馬屋原博委員/委員会外：久米佑会員、千葉貴仁会員、小杉崇会員、松島由典会員、オブザーバー：齊藤良佳会員

11. 教育委員会（山内理事）

- 第13回（2025年）放射線治療・物理学セミナーの開催報告【岡本裕之当番世話人/参加者398名/Live配信2025年7月5日/オンデマンド配信7月22日～8月22日】及び会計収支報告がなされた。[仮払金学会へ100%返金+43.18万円プラス収支]
- FARO education and training committee ウエビナー開催報告：8月27日19時～/テーマ：『Advances and Future Perspectives in Radiotherapy for Intracranial Germinoma』/講師：西岡健太郎会員
- 第10回小児がん放射線治療セミナー：2025年9月20日（神戸/オンデマンド配信中）

- 日本がん看護学会共催 第43回がん放射線治療看護セミナー：2025年11月1日 / テーマ「緩和的放射線治療」ハイブリッド ANAクラウンプラザ秋田
- 2026年ESTRO school: 2026年6月12日～14日 / 会場: TKP品川カンファレンスセンター ANNEX
- やさしくわかる放射線治療学改訂2版 (Gakken メディカル) : 2000部増刷の連絡あり

12. がん放射線治療推進委員会：2025年医学生・研修医のための放射線治療セミナー（中村聰明理事）

医学生・研修医のための放射線治療セミナーの開催、会計報告がなされた。[仮払金学会へ15%返金]

- ・オンラインセミナー：2025年5月10日 14-16時 / Web講演・なんでも相談会/参加者29名
- ・第44回(福岡会場)：2025年7月5日 / 講演、治療計画、小線源実習/参加者23名
- ・第45回(東京会場)：2025年7月12日 / 同/参加者27名

13. 日本看護協会との面談、要望書案（中村聰明理事）

「がん放射線療法看護分野における人材育成に関する日本看護協会(JNA)との意見交換会」が、2025年10月22日に実施され、放射線治療看護の現状・課題の当会よりの説明後、意見交換が行われ、来年度教育課程改訂期に向け、日本がん看護学会等と連携しがん放射線療法認定看護師の養成促進等今後継続的協議を続ける旨確認したことが議事録と共に報告された。(当会出席者：宇野理事長、中村聰明理事、山内理事、JNA出席者：秋山会長、木澤常任理事、山西認定部部長)

14. 編集委員会：JRR誌「Article Processing Charge (APC) 支援」の今後（小川理事）

前回理事会にて契約承認の日本放射線影響学会(JRRS)提案の新設の支援枠(非会員論文:最大6編/年会員価格で学会負担)及び従来からのAPC支援枠(前年1-12月の掲載論文数の10%を翌年のAPC論文掲載料免除枠として利用、従来はSupplenetで利用)の運用について、JRRS編集委員会、理事会にて協議を進めている旨報告された。

15. 放射線治療専門医制度委員会：放治専門医二次審査結果、専門医数都道府県別推移（古平理事）

- 2025年8月22日～23日 JASTRO・JRS実施・通知の第2回放射線治療専門医一次審査合格者52名に関して、日本専門医機構より全員、二次審査(最終承認)合格の通知が届いたこと、また、認定期間は学会認定時の9月1日ではなく、2025年4月1日～2030年3月31日となる旨が報告された。

- 放射線治療専門医数の都道府県別推移概要版 行政に準ずる団体よりデータ利用申請があった「放射線治療専門医数の都道府県別推移データ」について、事務局で精査しまとめたデータ表が提示され、申請を受理する旨確認された。

その他報告事項

1. 事務所家賃値上げの申し入れ等（事務局）

10月の事務所更新に合わせ、管理不動産会社を通して、家賃28%UP(約106万円/年)値上げと「定期借家契約への変更」の申し入れがあった。予算申請の際の所有者への確認では、特に値上げは予定していないとのことであったため例年の賃料の予算にて内閣府に申請を行ったこと、提示額28%UPはかなりのUPのため、15-20%UPの範囲で依頼し、定期借家契約への変更は、賃料UPの場合は困難である旨申し入れすることが確認された。

2. 第38回学術大会「中高大学生（医師を目指す）向け“ACTスポンサー・セミナー”への協力依頼

(ACT：祐宗氏、谷氏)

社)がん医療の今を共有する会(ACT)との祐宗理事長、谷氏より、昨年も開催の「医師を目指す学生向けのACTスポンサー・セミナー：君が広げる放射線治療の輪」について、今年も第38回学術大会(2025年11月29日午前)にて開催準備を進めており、本年より医学部生・初期研修医に前泊分補助(上限1.5万円)があること、役員の所属の医学生他広く周知への協力依頼がなされた。

3. 2026年理事会日程案

(宇野理事長/溝脇専務理事/大野総務担当理事)

2026年の年間理事会スケジュール案が示された。今後の理事会日程は以下の通り。

第1回 1/16(金)、第2回 3/17(火)、第3回 4/17(金)、
第4回 6/26(金)、第5回 7/23(木)、第6回 8/22(土)、
第7回 10/9(金)、第8回 11/11(水)